

# 神奈川県水産試験場研究報告

## 第 6 号

---

### 目 次

マダイの標識方法としてのタグピンの有効性について	高間 浩	1
相模湾におけるアカザエビの生態に関する研究		
漁獲資料からみた資源の変動	清水 詢道・三谷 勇・亀井 正法	7
相模湾におけるアカザエビの生態に関する研究		
籠別漁獲性能	三谷 勇・清水 詢道・亀井 正法	11
長井におけるクロアワビの成長、年令組成、生残率、再捕率を推定する試みとその結果	田内 大	17
相模湾におけるアカザエビの生態に関する研究		
餌料効果	三谷 勇・亀井 正法・清水 詢道	23
東京内湾、東京湾口及び相模湾の底生生物	原口 明郎	27
相模湾における漁業者が収集している漁海況情報の内容、 入手手段及び必要性に関する聞取調査結果	米山 健・長谷川 保・大野知多夫	35
東京湾のマダコ資源の研究、走水地先の資源量の推定	清水 詢道	43
鴨居におけるクロアワビの成長、年令組成、生残率、再捕率	田内 大・金杉 佐一・近山 通正	51
小網代湾の底質汚染について	土屋 久男・矢沢 敬三・池田 文雄	57
屋外培養におけるミドリムシ藻の増殖速度について	中田 尚宏	65
投稿規定		69
業績番号一覧表		75

---

# 神奈川県水産試験場研究報告投稿規定

## 投稿資格

報文の発表者は当該職員に限る。但し、業務委託による委嘱者、共同研究などによって生じる者の場合はその限りでない。

## 原稿の受付

この規定に従って記述された報文原稿は、編集委員会が随時受付ける。

## 校 閲

受け付けられた報文は、複数の編集委員の校閲を速やかに受けるものとする。報文の内容に関して問題があると編集委員が判断したときは、委員会として投稿者にその旨を通告し、投稿者と協議するものとする。

## 報文の受理

校閲者とその報文の掲載を可とし、これを編集委員会が承認した日付をもって、その報文の受理の日付とする。

## 用語と制限ページ

報文の用語は日本語または英語とする。

報文の長さは原則として、図表を含めて刷り上り10ページ以内とし、それを越える時は編集委員会と協議する。

## 原稿の部数

原稿は、本文・表・図を問わず、すべて2部（1部はコピーで可）を編集委員会へ提出する。

## 原稿の用紙と書き方

原稿は和文に関しては400字詰A4版横書き原稿用紙に簡潔平易に書き、英文に関しては通常のタイプ用紙にダブルスペースでタイプする。和文中に出てくる外国語はタイプするか、あるいは活字体で書く。

原稿用紙の行末に句読点がある場合は、次行の最初にその句読点を入れる。

---

\*日本では400字詰原稿用紙約5枚が1印刷ページに相当する。

英文では1行10語、25行の場合、約4枚で1印刷ページに相当する。

## 報文の構成

報文の構成は原則とし以下の通りとする。

和文：表題・著者名・英文表題，英文著者名，英文解説（Abstract or Synopsis，なくてもよい），本文，摘要（なくてもよい），引用文献，英文摘要（Summary，なくてもよい）。

英文：表題・著者名，日本文表題，日本文著者名，AbstractあるいはSynopsis（なくてもよい），本文，摘要（なくてもよい），引用文献，和文摘要。

その他：県職員は所属，県職員以外の外部投稿者は所属機関，所在地を脚注に付す。

## 表 題

表題は簡潔に論文の内容をあらわすようなものとする。とくに，表題に共通表題，連続番号および副題を併記したいときは例のようにする。

例)

小田和湾の藻場の魚類

群集の地域性と持続性

Fishes of Zostera Zone in Odawa Bay-

Locality and continuity of fish communities

## 著者名

和文で連名のときは「・」で連ねる。ローマ字書きの様式は名の頭文字をキャピタル，後をスモール，性の頭文字をキャピタル，後をスモールキャピタルにし，3名以上連名のときは「，」で連ね，最後の名は「，and」でつなく。

例)

山田太郎・川上次郎・山川三郎

YAMADA Taro, KAWAKAMI, and Saburo YAMAKAWA (2人以上の時)

Saburo YAMAKAWA (1人の時)

## 所 属(本文第1ページ脚注)

投稿者の所属は，ローマ字書きの著者名の右肩に「\*」をつけ，本文第1ページの脚注に入れる。所属名が複数の場合は「<sup>1)</sup>」，「<sup>2)</sup>」，「<sup>3)</sup>」のようにする。所在地は郵便の届く程度のものとする。

例1) 場員などの場合

山田太郎 Taro YAMADA\*

脚注<sup>1)</sup> 資源研究部(本場職員の場合)

相模湾支所(支所 " )

## 例 2 ) 県職員以外の外部投稿者

山川太郎 Taro YAMAKAWA\*

脚注\* 長崎大学水産学部 長崎市文教町852

## 例 3 ) 英文原稿の場合

Taro YAMAKAWA 山川太郎

脚注\* Faculty of Fish. The University of Nagasaki, Bunkyo machi, Nagasaki, 852  
(長崎大学水産学部)

## ランニングタイトル(誌面上部欄外に載せる表題を簡潔に短縮した形のもの)

和文原稿では和文で20字以内、英文原稿では英文で語間空白分を含めて50字以内とし、原稿第1ページの上部欄外に記載する。

## 原稿第1枚目の書き方

原稿の第1枚目は表紙とし、その上半部には、表題からはじめて、和文の場合は英文著者名まで、英文の場合は日本文著者名までを書くものとする。

また、ランニングタイトル、表題および著者名に付随する脚注もこのページに記載すること。

## AbstractあるいはSynopsis

英文でAbstractあるいはSynopsisを書く場合には、原稿2枚目にこれだけを書く。

## 本 文

本文は、原稿の第2枚目あるいは第3枚目から書き始め、原則として、緒言(はしがき)、材料および方法(実験方法、調査方法)、結果、考察、摘要(要約)、引用文献の順序に従い、見出しは2行どりで中央にゴジックで記載する。材料および方法の項のうち試料、分析法などの小見出しおよび結果の項のなかの小見出しは1行どりで左端に寄せてゴジックとする。

## 謝 辞

とくに長い謝辞が必要な場合は、別項目としても良いが、その場合は引用文献の前に入れる。

## 生物名・人名・単位など

動物・植物名の和名はカタカナ書きとし、学名はイタリックを指定する。同じ学名が繰り返して出る場合は、2度目以降は、混同の可能性のない限り属名を略記する。命名者を入れる場合はローマンで入れる。(頭文字をキャピタル、後をスモールキャピタル)。

人名の姓は、英語で書く場合は、頭文字をキャピタル、後をスモールキャピタルとする。

単位はメートル法とする。

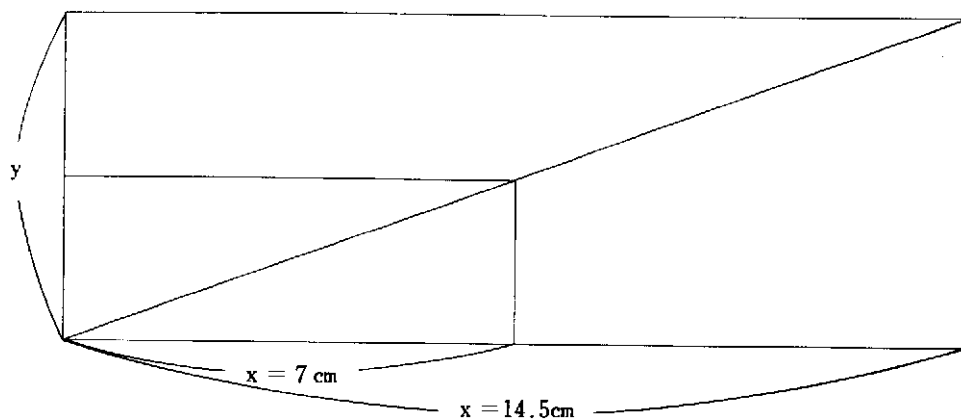
## 文字の指定

文章中文字の指定のあるときは、アンダーラインをして、ゴシックはゴジ(g)、イタリックはイタ、スモールキャピタルはs.c.などと指定する。

数式のうわつき、したつきの記号、およびギリシヤ文字は明瞭に指定する。

## 図、表の書き方

刷り上りの図の大きさは原則として横幅が最大14.5cm、または7cmとなるので、原図の横幅はそれぞれの2倍程度とする。図中の文字の刷り上りの大きさも考慮して、レタリングする。また、図の大きさと活字数は、下表の例のとおりなので、刷り上りページも十分考慮して作図する。



	x = 7 cm	x = 14.5 cm
y = 3 cm	175字	350字
4	225	450
5	275	550
6	325	650
7	375	750
8	425	850
9	500	1,000
10	550	1,100
11	600	1,200
12	650	1,300
13	700	1,400
14	750	1,500
15	825	1,650
20	1,075	2,150

表は印刷1ページ(B5)以内に収まるよう考慮する。

図表原稿は本文と別葉にし、挿入個所を本文原稿中の右欄外に朱書すること。

## 図，表の説明

表の説明は、表そのものの上部に書き、図の説明は別葉とする。番号はゴシックで「表 1」「Table 1」、  
「図 1」、「Fig 1」とする。和文報文中英文で説明を書いた場合は和文も併記する。各図表の右肩には  
鉛筆で著者名と番号を記入する。

## 引用文献

本文中での文献の引用は、次の例に従う。また 3 名以上のものについては「...他」または「...et. al」  
とする。

例)

山田・森 (1976) は..... YAMADA・MORI (1976) .....  
..... と考えられる (山 田 1951, 1953 a.b).  
..... (YAMADA 1951, 1953 a.b)。

引用した文献の配列は A B C 順とする。また、同一著者の同一年の発表のものについては年号のあと  
にアルファベットを付けて区別する。続いて引用する同一著者名は「——」のように、同じ雑誌が  
並ぶときも、同誌 (ibid) などと略してはならない。ただし、同一機関発行の同一文献を累年にわ  
たって引用した場合は、以下のように略してもよい。

例)

神奈川県水産試験場(1973~'77): 昭和47~51年度 漁況,海況予報事業結果報告書.

各文献は次の形式にのっとり,下記の例にならって記載すること。

雑誌の場合 著者名(年号): 論文表題・掲載雑誌名・巻(号), ページ

単行本の場合 著者名(年号): 表題・発行所・発行地(よく知られている発行所は省いてもよい),  
ページ数

例)

ODUM, E. R. (1971): Fundamentals of ecology, 3rd ed. W. B. Saunders.  
Philadelphia, 14 + 574pp

山田一郎・田中 明・鈴木正雄(1975): 東京湾の水質について,水産海洋研究会報,20, 25-32

YAMADA, I., A. TANAKA and M. SUZUKI (1975): On the water quality of Tokyo Bay. Bull.  
Japan. Soc. Fish. Oceanogr., 20, 25-32.

私信, 未発表などは引用文献の項には記載しない。

## 校正

報文の校正は原則としては、すべて著者が行う。

校正は印刷のミスのみについて行うものとし、本文や図・表を変更しないこと。

## 規定の適用

この規定は神奈川県水産試験場研究報告第3号から適用する。

この規定の改訂は、編集委員会の承認を得て行う。

## 神奈川県水産試験場業績番号一覧表

業績番号	著者	論文名	業績番号 取得年・月・日	備考
79 01	清水詢道	小田和湾の藻場の魚類 種数・個体数の変動と群集の地域性・持続性	1979.6.29	神水試 研究報告第1号
79 02	鈴木弘毅	相模湾周辺域に分布するスルメイカの生態に 関する研究。来遊量の経年、季節変動および これと関連水域の同変動との関係	1979.8.9	同上
79 03	亀井正法	相模湾北岸の砂底沖浜水域に生息する異体類 (ヒラメ・カレイ類)の分布	1979.8.20	同上
79 04	今井利為	三浦市沿岸のウニ類について 城ヶ島における分布・環境・成長および生殖 巣の観察	1979.9.22	同上
79 05	田内 大	天然ヒラメ親魚からの採卵について 採卵適期について	1979.10.1	同上
79 06	田内 大	同上 採卵成績について	同上	同上
79 07	田内 大	同上 ヒラメ産卵期における採卵・採精 親魚の相対成長について	同上	同上
79 08	岩田静夫 細田昌宏 松山優治	相模湾沿岸の流れの変動について	1979.10.8	同上
79 09	高間 浩	アマモ場での葉上付着生物の組成と季節変化	1979.10.18	同上
79 10	中田尚宏 三谷 勇	神奈川県金田湾における魚卵稚仔魚の出現と 分布について	1979.10.25	同上
79 11	中込 淳	東京湾南部におけるマコガレイの漁獲量と魚 体特性の変動	1979.10.27	同上
79 12	鈴木弘毅	日本海沖合に分布するスルメイカの生態に関 する研究。カラフト西海域の分布と移動 について	1979.10.30	同上
79 13	井上正昭 大場忠道	アワビの成長と年齢形質としての輪紋につい て	1979.11.6	同上



業績番号	著者	論文名	業績番号 取得年・月・日	備考
79 14	矢沢敬三 土屋久男 下里武治 長崎義一	横須賀市大津湾の水質の現況とその動向	1979.11.6	神水試 研究報告第1号
79 15	矢沢敬三 土屋久男 下里武治 長崎義一	横須賀市大津湾の底質の現況とその動向	1979.11.6	神水試 研究報告第2号
79 16	下里武治 原口明郎 土屋久男 矢沢敬三 沼田 武	小田和湾の底質と底生動物について	1979.11.6	同 上
80 17	今井利為	三浦市沿岸のウニ類について 上宮田から初声に至るウニ類の分布・密度・ 殻径組成・生殖巣	1980.2.7	同 上
80 18	清水詢道	小田和湾の藻場の魚類 主要種の生活	1980.3.28	同 上
80 19	亀井正法	相模湾北岸の砂底沖浜水域に生息するネズツ ボ類の分布	1980.3.29	同 上
80 20	三谷 勇	イワシ類の稚仔魚における体長と体重との関 係について	1980.3.31	同 上
80 22	鈴木弘毅	アカイカの生態に関する研究 成熟個体	1980.5.20	水産海洋研究会
80 21	今井利為	昭和55年度クルマエビ放流効果調査報告書	1981.2.1	クルマエビ種苗 生産事業（放流 効果調査）
80 23	小林良則	昭和55年度指定調査研究総合助成事業 沿岸漁場の経営的類型化と漁場資源の高度利 用に関する研究	1981.2.2	神水試資料
80 24	高間 浩	昭和55年度太平洋中区回遊性魚類共同放流実 験事業調査報告	1981.2.2	神水試資料No.278

業績番号	著者	論文名	業績番号 取得年・月・日	備考
80 25	金杉佐一 高間 浩 田内 大 今井利為 中村幸雄	S.52～55年度指定調査研究総合助成事業報告書。餌料海藻増殖試験	1981.3.13	神水試資料No.279
80 26	井上正昭	イセエビのフィロソマ幼生の飼育に関する基礎的研究	1981.3.30	神水試 論文集1号
81 27	清水詢道	長井沖人工礁漁場における魚群分布について	1981.4.27	神水試 研究報告第3号
81 28	今井利為	イワムシ <i>Marphysa sanguinea</i> (MONTAGU)の摂餌と排泄について	1981.4.27	同 上
81 30	亀井正法 高間 浩	相模湾で採集したイシダイとイシガキダイの天然交雑種について	1981.5.25	同 上
81 32	木幡 孜	相模湾産重要魚種の生態 2 西湘地区におけるウマヅラハギの生産特性 <i>Navodon modestus</i> (GÜNTHER)	1981.5.25	同 上
81 29	三谷 勇	寄生虫 <i>Nerocila phaeopleura</i> B leekerによるマイワシ肥満度の変化について	1981.5.11	日水誌投稿48(5)
81 31	中田尚宏 今井千文	神奈川県城ヶ島沖における魚卵・仔魚の垂直分布について	1981.5.25	神水試 研究報告第3号
81 33	三谷 勇	神奈川県沿岸に來遊するイワシ類の生態に関する研究 神奈川県鎌倉沖におけるマイワシとカタクチイワシの來遊特性	1981.6.29	同 上
81 34	田内 大	城ヶ島赤羽根地先アワビ礁群におけるクロアワビの成長,年齢組成,礁内生残率と漁獲率について	1981.6.29	同 上
81 35	高間 浩	大津湾における放流マダイの移動と分散	1981.6.29	同 上
81 36	岩田静夫 池田文雄 松山優治	三崎港における水温の特徴について	1981.6.29	同 上

業績番号	著者	論文名	業績番号 取得年・月・日	備考
81 37	柴田勇夫	アンケート調査からみた卸売魚市場におけるウマヅラハギの入荷状況と価格について	1981.6.29	神水試 研究報告第3号
81 38	長谷川保 水津敏博 米山 健 木幡 孜	神奈川県下における魚消費の地域性に関する一考察	1981.6.29	同上
81 39	大野知多夫	ウマヅラハギ利用によるナポドンミート製造の新手法	1981.6.29	同上
81 40	中田尚宏	東京湾(神奈川県海面)における赤潮発生状況(1976~1980年)	1981.8.3	県環境部「藻類植生・底生動物と水質汚濁」
81 41	池田義明 久保昭史 田村和男 大野知多夫 岡部 勝 笠原定夫 水津敏博 米山 健	S.55年度水産改良普及事業及び事業活動実績報告書	1981.9.8	神水試資料No.282
81 42	今井利為	イワムシの初期生態と飼育	1982.1.	ベントス研究会誌 23
81 43	高間 浩 城条義興 武富正和 宮田 智	S.56年度回遊性魚類共同放流実験調査事業報告書	1982.2.10	神水試資料No.285
81 44	今井利為 近山通正 田内 大	太陽熱利用による水産種苗生産技術改良試験	1982.2.19	試験研究連絡協議 会省エネルギー部 会太陽エネルギー 利用分科会昭和56 年度太陽エネルギー 利用技術研究の 成果
81 45	金杉佐一 今井利為 高間 浩 中村幸雄	磯焼け地域におけるアラメ・カジメの天然群落の拡大に関する研究	1982.3.	神水試資料No.286

業績番号	著者	論文名	業績番号 取得年・月・日	備考
81 46	栗原伸夫 小林良則	沿岸漁獲物の地域流通に関する研究	1982.3.16	昭和56年度指定調査研究総合助成事業報告書 56年度報告書(県単) 神水試資料No.288
82 47	清水詢道 永田 知	長井沖人工礁漁場の魚類相	1982.3.23	神水試 研究報告第4号
82 48	三谷 勇	神奈川県沿岸に來遊するイワシ類の生態に関する研究。金田湾におけるマイワシとカタクチイワシの來遊特性	1982.4.26	同 上
82 49	花本栄二 柴田達男 奥井博行	インド洋におけるマカジキの鉛直分布とまぐろはえなわの漁獲特性	1982.4.26	同 上
82 50	木幡 孜	相模湾産重要魚種の生態 V の1 浮魚類数種の移動と回遊	1982.4.26	同 上
82 51	木幡 孜	相模湾産重要魚種の生態 V の2 浮魚類数種の再捕率	1982.4.26	同 上
82 52	岩田静夫 中田尚宏 今井利為	沿岸漁業の実態と水産海洋研究の方向を考える	1982.5.31	水産海洋研究会 報第40号
82 53	中田尚宏	カタクチイワシ発生初期の動態と垂直分布について	1982.5.7	関東・東海ブロック水産海洋連絡会報(56年度)
82 54	岩田静夫 池田文雄 松山優治	相模湾沿岸の流れの変動について	1982.6.11	神水試 研究報告第4号
82 55	長谷川保	試水ビンからの水分蒸発による塩分濃度の増加について	1982.6.11	同 上
82 56	今井利為	神奈川県におけるクルマエビ種苗放流の評価	1982.7.19	同 上
82 57	中田尚宏	相模湾の動物プランクトンの時間的変動	1982.7.19	同 上

業績番号	著者	論文名	業績番号 取得年・月・日	備考
82 58	三谷 勇	蓄養実験におけるマイワシ標識魚の死亡率と生理的变化	1982. 8 . 4	日水誌49(7)
82 59	平元泰輔 川辺 実	G G装置による定置網浮揚試験	1982. 8 . 9	神水試 研究報告第4号
82 60	原口明郎	東京湾口及び相模湾の底生生物	1982. 9 .17	県環境部「神奈川県の水生生物第4報」
82 61	高間 浩	昭和57年度太平洋中区回遊性魚類共同放流実験調査事業報告	1983. 2 . 7	神水試資料No.294
82 62	金杉佐一	磯焼け地域におけるアラメ・カジメの天然群落の拡大に関する研究	1983. 3 . 9	神水試資料No.295
82 63	三谷 勇	昭和57年度指定調査研究総合助成事業結果報告書。シラス海場の形成要因に関する研究	1983. 4 .12	神水試資料No.296
83 64	高間 浩	昭和58年度回遊性魚類共同放流実験調査事業報告	1984. 2 .10	神水試資料No.302
83 65	金杉佐一	磯焼け地域におけるアラメ・カジメの天然群落の拡大に関する研究。昭56～58 指定調査研究報告書	1984. 2 .23	神水試資料No.303
83 66	三谷 勇	鱗によるマイワシの年齢査定法	1983. 3 .28	神水試 研究報告第5号
83 67	清水詢道	人工魚礁における生産効果推定のー方法	1983. 3 .28	同 上
83 68	中田尚宏	神奈川県沿岸のコノシロ浮遊卵と漁獲量との関係	1983. 4 . 8	同 上
83 69	三谷 勇	カツオ餌料魚としての蓄養イワシ類のストレス反応に関する研究	1983. 4 .20	同 上
83 70	清水詢道	東京湾のマダコ資源の研究	1983. 5 .13	同 上
83 71	亀井正法	東京湾でえられた側面逆位のマコガレイについて	1983. 5 .17	同 上
83 72	水津敏博	江奈湾におけるアワビ養殖試験について	1983. 5 .23	同 上

業績番号	著者	論文名	業績番号 取得年・月・日	備考
83 73	高間 浩	マダイの標識方法	1983. 5 .24	神水試 研究報告第6号
83 74	清水詢道 三谷 勇 亀井正法	相模湾におけるアカザエビの生態に関する研究	1983. 5 .25	同 上
83 75	三谷 勇 清水詢道 亀井正法	相模湾におけるアカザエビの生態に関する研究	1983. 5 .26	同 上
83 76	田内 大	長井におけるクロアワビの成長, 年齢組成, 生 残率, 再捕率を推定する試みとその結果	1983. 5 .26	同 上
83 77	三谷 勇 亀井正法 清水詢道	相模湾におけるアカザエビの生態に関する研究	1983. 5 .30	同 上
83 78	原口明郎	東京内湾, 東京湾口及び相模湾の底生生物	1983. 5 .31	同 上
83 79	米山 健 長谷川保 大野知多夫	相模湾における漁業者が収集している漁海況情 報の内容, 入手手段及び必要性に関する聞き調 査結果	1983. 5 .31	同 上
84 80	清水詢道	東京湾のマダコ資源の研究	1984. 6 .20	同 上
84 81	田内 大 金杉佐一 近山通正	鴨居におけるクロアワビの成長, 年齢組成, 生 残率と再捕率	1984. 6 .20	同 上
84 82	栗原伸夫 上条清光 小林良則 水津敏博	昭和58年度指定調査研究事業報告 沿岸漁船漁業における経済生産性の解析	1984. 3 .31	神水試資料No.304
84 83	土屋久男 矢沢敬三 池田文雄	小網代湾の底質汚染について	1984. 6 .20	神水試 研究報告第6号
84 84	中田尚宏	屋外培養におけるミドリムシ藻の増殖速度につ いて	1984. 6 .20	同 上

業績番号	著者	論文名	業績番号 取得年・月・日	備考
84 85	原口明郎	東京内湾四季別底生々物の変化	1984. 9 .12	神奈川県の水生生 物第6報

本 報 告 略 号

神 水 試 研 報

Abbreviation of this bulletin

Bull, Kanagawa Pref. Fish. Exp. Stn.

## 編 集 委 員 会

委員長 中 込 淳

委 員 石戸谷博範, 岩田 静夫, 江川 公明

岡部 勝, 金杉 佐一, 上条 清光

木幡 孜, 杉浦 暁裕, 鈴木 保夫

田内 大, 沼田 武, 花本 英二

---

昭和 59 年 10 月 20 日 印刷

昭和 59 年 10 月 31 日 発行

発行所 神 奈 川 県 水 産 試 験 場

神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子

電話 三浦 (0468) 82 - 2311(代)

郵便番号 238-02

発行者 桜 井 裕

印刷所 西 岡 印 刷 株 式 会 社

横浜市南区吉野町5 22

T E L (045) 251 7017



BULLETIN  
OF THE  
KANAGAWA PREFECTURAL  
FISHERY EXPERIMENTAL STATION  
No. 6

---

CONTENT

TAKAMA H.: The effectiveness of tag-pin for a tagging method of red sea bream <i>Pagrus major</i> . . . . .	1
SHIMIZU T., I. MITANI, and M. KAMEI : Some biological aspects of Japanese lobster, <i>Nephrops japonicus</i> , in Sagami Bay- Fluctuation of resorce based on catch data. . . . .	7
MITANI I., T. SHIMIZU, and M. KAMEI : Some biological aspects of Japanese lobster, <i>Nephrops japonicus</i> , in Sagami Bay- . . . . .	11
TAUTI M.:Growth, age composition, survival rate and recapture rate of Japanese black abalone, <i>Haliotis discus REEVE</i> , at Nagai. . . . .	17
MITANI I., M. KAMEI, and T. SHIMIZU : Some biological aspects of Japanese lobster, <i>Nephrops japonicus</i> , in Sagami Bay- The enticing effect of the bait. . . . . .	23
HARAGUCHI A. : Benthos in Interal part of Tokyo Bay, Mouth part of Tokyo Bay and Sagami Bay. . . . .	27
YONEYAMA K., T. HASEGAWA, and C. OHNO : Examination of information above fishing vondition and oceanic condition which is collected by fishermen who work in Sagami Bay and the sea of Sagami. . . . .	35
SHIMIZU T.:The study on the octopus( <i>Octopus vulgaris CUVIER</i> ) stock in the Tokyo Bay- . Estimation of the stock off Hashirimizu. . . . .	43
TAUTI M., S. KANASUGI, and M. CHIKAYAMA : Growth, age composition, survival rate and recapture rate of Japanese black abalone, <i>Haliotis discus REEVE</i> , at Kamoi . . . . .	51
TSUCHIYA . H., K YAZAWA and F. IKEDA : Pollution of bottom sediments in Koajiro Bay. . . . .	57
NAKATA N. : Increase speed of Euglenophyceae in an outdoor culture. . . . .	65

---

KANAGAWA PREFECTURAL FISHERY EXPERIMENTAL STATION

MISAKI, JAPAN

1984